

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

種々の原因による視機能障害者における ADL の検討

研究分担者 仲泊 聡 国立開発研究法人理化学研究所生命機能科学研究センター  
上級研究員

研究分担者 山上明子 井上眼科病院 常勤医師

【研究要旨】

視機能障害者の障害程度と ADL との関連を見るための検査項目及びアンケート項目を検討した。その結果、ロービジョン者用日常生活活動評価尺度を中心に ADL 調査アンケート表を調整した。

A．研究目的

2018年7月の身体障害者手帳視覚障害の基準作成に伴って生じた課題の解決に向けて、視機能とADLに関する評価について科学的知見を整理し、障害認定基準の改善につなげることを目的とする。

B．研究方法

視覚障害者に関する調査経験者と疫学学者を中心としたワーキンググループを結成しアンケートの雛形を作成した。これを研究班会議で討議し、改良した。

（倫理面への配慮）

調査前であり、倫理審査はまだ受けていない。

C．研究結果

医学データとしては、年齢、性、病名、矯正視力、Goldmann視野検査、Humphrey視野検査、MNREADJおよび若倉式眼瞼痙攣スケールを採用した。ADL評価としてロービジョン者用日常生活活動評価尺度（LVFAM評価票）、

順応関連追加分、明らかな認知症の除外、フレイルの評価、片目関連項目、その他の症状の全56項目からなるアンケート調査表を作成した。

D．考察

当初予定していた調査票が、日本語での信頼性・妥当性の評価が未調査であったため、今年度に登場したLVFAM評価票がその中核部分に採用された。研究班会議では、障害者調査の経験をもつ班員から、知的なチェックとフレイルのチェックを行い、データの解析の除外例を明確化すべきとの意見が出た。また、片眼関連の項目については、当事者団体へのヒアリングを通して、項目設定を行うように指示された。

E．結論

調査用アンケート項目が決定した。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし